

第1回まちづくり推進検討委員会

—議事録—

日時：平成24年1月13日（金）

13：30～15：30

場所：大月市民会館3階 講堂

1. 開会

【事務局】

- ・本日は大変ご苦勞様でございます。
- ・定刻になりましたので、ただいまから平成23年度第1回まちづくり推進検討委員会を始めさせていただきます。
- ・まずはじめに、石井大月市長から挨拶を頂きたいと思ひます。
- ・よろしくお願ひします。

2. あいさつ

【市長】

- ・皆さんこんにちは。
- ・また新年にあたりましてあけましておめでとうござひます。
- ・年の初めでありまして大変お忙しい中ではありますが、まちづくり推進検討委員会にご出席頂きましてありがとうございます。
- ・今年は天候をみますと、ここ数日は非常に寒さが厳しさを増している状況でありますが、雨や雪が降らず乾燥している中で、皆様は非常に健康管理に大変苦勞なされているのではないかと思っております。
- ・そのような中で、皆様ご存知のとおり駅前前の整備事業や駅前広場整備事業におきましては、ご支援ご協力を賜りまして、多少の遅れは出ておりますが、ほぼ順調に工事が進捗している状況であります。
- ・昨年末までにJR車庫の移転工事、あるいはJRの構内トイレ、また市が管理いたします公衆トイレの看板案内情報の建設工事につきましては、発注が完了いたしました。
- ・これらの工事の大部分は7月の完成を目標にいたしまして、工事が進められている状況となっております。
- ・今、駅前広場の前は工事のため煩雑している状況でありますが、皆様方には今後とも更なるご支援をお願いしたいと思っております。
- ・まちづくり推進検討委員会でありますが、平成18年度にこの前身となります大月駅周辺整備検討委員会が、事業の基本構想と事業計画の調査というプログラムの検証等をご審議いただきながら、平成19年度にこのまちづくり推進検討委員会が継承されたところであります。
- ・平成19年度は中心市街地における賑わいづくりの方向性の検討や景観形成のルールづくりを行っていただき、次の平成20年度から平成21年度におきましては、賑わいづくりの具体的な戦略とその事業案作成作業部会の立ち上げが行われたという状況であります。

- ・その後平成22年度からは、作業部会から報告された各種社会実験の実施計画の検討と決定がなされまして、賑わいづくりへのスタートラインが設定されました。
- ・そのような状況において、それぞれが一体となり、大変な努力をされる中で、軽トラ市あるいは夕やけ市等を実施いただく中で、天候にはあまり恵まれなかったわけではありますが、各それぞれの機関の大変なご支援ご協力をいただく中で、概ね実験も終了しているという状況において、本日当委員会において、今年度初めてではあります、この実験の検証を行って頂く状況となっております。
- ・その他のご苦勞の成果、この社会実験の状況が見られるような成果の検証を是非よろしく願いしたいと思います。
- ・その他大月駅周辺事業も今年度を持ちまして終了の予定ではあります、この事業が大月の賑わいづくりの更なる寄与が出来ますことをお願い申し上げまして、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。
- ・よろしくお願い致します。

【事務局】

- ・ありがとうございました。
- ・この後、大月市長は公務のため退席をさせていただきますのでよろしくお願い致します。

3. 正副委員長の選任について

【事務局】

- ・続きまして、まちづくり推進検討委員会の委員さんの交代が6名ほどいらっしゃいますので、紹介をさせていただきたいと思います。
- ・こちらでお名前をお呼びいたしますので、その場でお立ち願いたいと思います。
- ・大月市議会議員代表、天野祐治様。
- ・本日欠席ということで連絡を頂いております。
- ・山梨県富士・東部建設事務所次長、中村学様。
- ・続きまして大月警察署副所長、佐藤直行様。
- ・大月区区長、吉角務様、本日欠席との連絡を頂いております。
- ・同じく御太刀区区長、小幡和夫様、本日欠席ということで頂いております。
- ・大月青年会議所理事長、天野統一様。
- ・ありがとうございました。
- ・続きまして次第3の正副委員長の選任について移らせていただきます。
- ・委員長並びに副委員長の選任ですが、いかが致しましょうか。

(事務局一任との声)

- ・今、事務局一任という声を頂きましたので、こちらの方からお願いをしたいと思います。
- ・委員長に流通科学大学教授の西井和夫様。
- ・副委員長に大月商工会会長の平井誉様に、昨年に引き続きお願いをしたいと思います。
- ・委員長副委員長、前の席に入れ替えをしたいと思います。

(席移動)

- ・それでは、一言ずつ挨拶を頂きたいと思います。
- ・まず始めに西井委員長、お願いします。

【委員長】

- ・昨年度に引き続きまして委員長の責務を全うしたいと思います。
- ・皆さんの忌憚ないご意見の中でしっかりとした推進検討委員会としての成果と申しますか、議論をしたいと思っております。
- ・よろしくお願いします。

【副委員長】

- ・副委員長を仰せつかりました平井でございます。
- ・皆様の提案を頂く中で、街づくりが段々と整ってきたと思います。
- ・どうか皆さんよろしくお願い致します。

【事務局】

- ・ありがとうございました。
 - ・それでは議事に入る前に、お手元に資料を置かせていただいておりますが、資料の確認をお願いしたいと思います。
- (資料 1～3、参考資料の確認)
- ・それでは西井委員長、平井副委員長よろしくお願い致します。

4. 議事

■前年度活動報告

【委員長】

- ・それでは、お手元の議事次第に沿いまして進めさせていただきます。
- ・今日は前年度の活動報告と、それから今年度の活動計画ということで指名させていただいておりますので、まず第一項目の前年度の活動報告について、事務局の方からご説明をしていただきまして、この件についての審議について行いたいと思います。
- ・よろしくお願いします。

【事務局】

(平成 22 年度まちづくり推進検討委員会活動報告書について説明)

- ・お手元の資料でまちづくり平成 22 年度まちづくり推進検討委員会活動報告書をご覧ください。
- ・まず、まちづくり推進検討委員会の活動の概要について読ませさせていただきます。
- ・平成 22 年度のまちづくり推進検討委員会は下記にありますように 2 回開催いたしました。
- ・平成 22 年度の検討委員会は平成 21 年度の検討委員会の決定に基づき、A 作業部会は「駅前を中心とした賑わいづくり」、B 作業部会は「商店街を中心とした賑わいづくり」の作業部会が設置され、平成 22 年 7 月から社会実験の実施計画書案について各部会において議論が開始さ

れました。

- ・第1回目の委員会はこのAとBの各作業部会からの企画書案が計画され、その内容について議論がされました。
- ・第2回は作業部会からの報告を受け、企画書案から内容をより具体化した実施計画書案へと進められ、議論が行われました。
- ・第1回まちづくり推進検討委員会の概要についてご説明します。
- ・第1回目は社会実験の企画書案の検討を目的として開催しました。
- ・検討委員会では各作業部会会長から作業部会の活動の経過や結果報告がされました。
- ・A部会では委員会で絞り込んだ5つの具体的事業案から「駅前夕市事業」と「おおつきコンシェルジュ事業」の二つの事業に、そしてB部会は6つの事業案から「おもてなしストリート事業」、「街なか魅力発見事業」、「大月軽トラック市事業」の3つの事業に絞り込みました。
- ・そして、AとBで5つの事業の企画書案の報告について検討委員会に報告がありました。
- ・検討委員会ではこの報告を受け議論が行われ、作業部会で重複する事業の調整や社会実験終了後の事業の継続性や持続性を考え、より具体的な内容の検討を行い、大月市賑わいづくり社会実験実施計画書案を提案していただきました。
- ・次に第2回目の委員会の概要をご説明します。
- ・第2回目の検討委員会では作業部会が第1回目の検討委員会からの提言を受け、AとB各部会企画書案から実施計画書案として提案されました。
- ・検討委員会の議論の中では5つの事業について、提言がそれぞれ出されました。
- ・ここで出されました提言を実施計画書案に反映させていくということで大月市賑わいづくり社会実施計画書案は委員会で承認されました。
- ・続きまして、次のページの作業部会に入ります。
- ・先程から報告の中で出ていました作業部会については社会実験に関する実施計画を策定するために、何回も検討を重ねて委員会に提案をしてきました。
- ・A部会は石井信行委員が部会長となり、8人の委員で5回の部会を開催し、実施計画書案をまとめました。
- ・B部会については永岩尊暢委員が部会長となり、9人の委員で4回の部会を開催し、実施計画書案をまとめました。
- ・各作業部会の内容については、申し訳ございませんが、ご一読していただければと思います。
- ・以上で前年度の活動報告を終わらせていただきます。

【委員長】

- ・ありがとうございました。
- ・これは今日の議事の2つ目にも関係しておりますけれども、前年度の本推進委員会の活動をまず確認するという意味合いで平成22年度の活動報告書についての内容のご説明を事務局からしていただきました。
- ・何かこれについてのご質問、あるいは付け加えるべきコメント等ございましたら、いただければと思いますが、いかがでしょうか。
- ・実質的には推進検討委員会は2回開催したわけですが、作業部会、つまりA部会とB部会を設

置いたしまして、そちらの活動報告あるいは活動の結果を踏まえて推進委員会が持たれたという形になっております。

- 具体的な活動につきましては、この平成22年度から今年度にまたがる話でございますが、社会実験を実施するというので、当初は企画段階の企画書の案について、それから2回目は更にそれを絞り込み、内容を具体的にしました実施計画書案、この段階での推進委員会での審議を行い、今年度の実際の実施に備えたという流れになっております。
- なおA部会では部会長の石井先生、そしてB部会では永岩先生と部会長の代理としての小俣さんには、非常にこの部会のマネジメントについてご苦労していただきました。
- 遅ればせながらここで感謝したいと思います、ありがとうございました。
- いかがでしょうか。
- 何かこの各報告書のところでお気づきの点ございますでしょうか。
- よろしいでしょうか。
- そうしましたら、22年度の活動報告ということで、これを委員会として認めたことにしたいと思います。
- なおもしこの報告書等を後でお読みになってお気づきの点ありましたら、改めて事務局の方にご連絡していただければと思います。
- それでは、2つ目の議事でございますが、平成23年度、本年度の活動計画ということで「資料1」から「資料3」まで、主要な資料が配布されてますので、これをそれぞれ関連もございまして、「資料1」から「資料3」まで続けて説明をしていただきまして、その後個別に資料ごとに質疑応答という形で議事を進めさせていただきます。
- それでは、「資料1」の委員会開催経緯と今後の進め方についてのご説明を事務局からよろしくお願いします。

■本年度活動計画

【事務局】

(「資料1：委員会開催経緯と今後の進め方について」説明)

- それでは、お手元の「資料1」をご覧ください。
- まず、賑わいづくり形成に向けた委員会開催経緯について説明をさせていただきます。
- 平成18年度に大月駅周辺検討委員会が発足され、大月駅周辺整備に係る検討課題等についての審議をしております。
- その後、平成19年度から平成23年度におきまして、まちづくり推進検討委員会に代わり議論がされてきております。
- 平成19年度におきましては、賑わいづくりの基本的方向性についての検討を行いました。
- 平成20年度におきましては、賑わいづくりのための具体的戦略についての検討をしております。
- 平成21年度には賑わいづくりのための具体的事業案について検討を行い、また平成21年度には作業部会を立ち上げまして、社会実験に向けた準備をしてきております。
- 平成22年度につきましては、先程平井の方から活動報告がありました通り、社会実験実施に向けた実施計画等の検討を行いまして、まちづくり推進検討委員会において承認を頂いております。

- ・平成23年度、今後の進め方といたしまして、今日と第2回にわたり、推進検討委員会を開催していく予定になっておりますが、今後社会実験5事業の実施計画を踏まえまして、次年度以降の中心市街地の活性化のための継続的な実施メニューの検討と継続的な実施体制の構築に向けて検討をしていきたいと考えております。
- ・なお、実施の具体的なメニューの検討につきましては、今後の協議会等において具体的に検討をしていただきたいという考えを持っております。
- ・以上が「賑わいづくり」形成に向けた委員会の開催経緯と今後の進め方についてということで、説明をさせていただきました。以上です。

【委員長】

- ・それでは、続けて「資料2」の方の社会実験の結果報告ということで、今年度具体的に実施いたしました事業、5つの事業があったわけですけれども、これらの社会実験のそれぞれの事業の結果報告を、この社会実験の評価を担当しているコンサルタントの方からご説明をしていただきます。
- ・よろしくお願ひします。

【コンサルタント】

(「資料2：社会実験の結果報告」について説明)

(1. 大月駅周辺における賑わい形成(社会実験)の効果・検証に向けて)

- ・まず1枚目ですが、今回社会実験を実施しまして、それらの効果を検証していくということで、昨年度まで色々と委員会で検討されてきたこと、それを一度踏まえまして、何を目的に社会実験を行うかということを整理したのが下のフローになっております。
- ・最大の課題ということで中心市街地の衰退、この課題を解決していこうということで、中心市街地活性化したいという達成目標のもと、社会実験のメニューを色々検討されてきたと考えております。
- ・そのための仕掛けということで、社会実験メニューとして、ひとつめは“人を集める(賑わいづくり)の仕掛け”、2つ目は“地域住民、観光客、来訪者、商店街、行政等、皆が満足できる仕掛け”、3つ目としまして“中心市街地が元気になる仕掛け”、これは経済効果みたいなものがありますが、この3つを大きな柱としてやっていこうということで、社会実験が平成23年度実施されました。
- ・それらの社会実験を実施しまして、それで終わりではなく、実施した結果、どういう効果があったということを測る指標をきちんと設定しなければならないということで、資料の黄色い部分になりますが、定量的な効果の検証を行う必要があります。
- ・定量的に計れる指標、評価軸として『①集客力』、『②満足度』、『③経済効果』、この3つを評価軸として設定しました。
- ・そして、評価項目を設定しまして、評価方法の設定、最後に評価(効果の検証)を行っていくということで、定量的な効果の検証を行うことで整理しております。
- ・次に定性的な課題の検証ということで、全て定量的に計れる効果だけではないということで、アンケートの中の自由意見とか、そのようなものから、課題等をここで検証していくというこ

とが必要と考え、近隣影響度、費用対効果、また地域の連携とか協力体制、そういったものを『④課題の検証』、評価軸として設定しました。

- ・この①から④の評価軸を設定しまして、これらを検証し、次年度以降の持続的な賑わいづくり形成に向けた方針を立てていくということを社会実験実施前に一度整理しております。

((1) 大月賑わいづくり社会実験 計測項目一覧)

- ・次に、計測項目一覧ということで、左から事業A1からB3までありますが、そこに対して評価軸①から④について、計測項目をそれぞれ設定し、対象者、計測手法等を整理し、社会実験期間に計測を行いました。
- ・計測の数が多い様に見えますが、関連するものについては一緒に計測を行っております。

((2) 賑わいづくり社会実験 結果報告)

- ・次に3枚目ですが、このような評価軸のもと、それぞれ計測を行った結果を3ページと4ページにまとめております。
- ・お配りしております資料の中で、参考資料でA4で21ページでまとめたものがあり、そちらの方には細かい計測結果をまとめておりますが、今回は計測結果の概要で説明させていただきます。
- ・参考資料については時間がある時に見ていただければと思います。

(A-1 駅前夕市事業)

- ・まず、A1の「駅前夕市事業」の中の夕やけ市ですが、これは計3回、8月、9月、10月に実施しております。
- ・3回目の10月については「軽トラック市事業」と合同で開催されております。
- ・まず、『①集客力』の夕やけ市の来場者数については、1回目の8月20日は1,200人、9月17日は600人が来場しています。
- ・次に、周辺地域への波及効果ということで、歩行者通行量を2地点計測しており、合計の歩行者通行量が1回目は5時間で880人、2回目は3時間で439人となっており、また、平常時(開催日以外)との比較においては、約1.5倍歩行者通行量が増加したという結果が得られました。
- ・これにより、夕やけ市を開催することにより、駅前及び商店街への回遊性の向上や駅前の賑わいの創出に寄与したということでまとめております。
- ・『②満足度』については来街者と商店街それぞれアンケートをとっております。
- ・その結果、来街者、商店街の満足度はともに高く、来街者については夕やけ市をきっかけとして商店街の商店に行ってみたくとか来店意向の向上につながっており、また、継続的に実施して欲しいという希望がありました。
- ・『③経済効果』については、出店店舗の売上高と購入客数を調査し、売上高全体は夕やけ市2回の平均になりますが、約21万円、購入客数については延べ人数になりますが、約440人。
- ・各出店者の売上高については、平均約1万2千円、最大の店舗では約2万9千円の売上高がありました。
- ・購入客数についても、平均では1店舗25人、最大で50人という結果が得られました。

- ・それにより、一定の売上高とか購入客数というものを得ることが出来たという結果になっておりますが、実際にはこの事業に関わる費用等もあり、直接的な経済効果にはつながってはいないのではないかということでまとめております。
- ・『④課題の検証』、事業実施における課題ということで、来街者と商店街のアンケート結果からまとめており、このような事業は一度きりではなくて継続的に実施していくことが必要ではないか、また、もう少し集客を行っていくための方策の検討が必要ではないかという意見が出ております。
- ・次に地域の連携協力体制ということで、実際に準備等関わってきた方、実行委員会や作業部会の方々へのアンケートを行い、連携・協力体制が良かったということで、9割の方が今後も事業に継続的に関わっていきたいということを希望しております。
- ・この夕やけ市の『効果・検証』ですが、実施日についてはやはり集客により、回遊性が向上し、賑わいが創出されております。
- ・ただ、事業単体としてみますと、経済効果には直接つながらないという結果になっておりますが、今後、継続的に実施していくことで駅前や商店街への集客を図り、知名度の向上、リピーターの増加等の波及効果による経済効果を期待するというところでまとめております。
- ・次にうみゃーもんフェアですが、こちらの方は8月26日から10月31日までの毎週金曜日と土曜日ということで、各飲食店で独自の大ツキメニューを食べられるというフェアを開催しております。
- ・まず、『②満足度』については、来街者満足度ということで、来店された方にアンケートをとっております。
- ・大ツキメニューについては6割、うみゃーもんフェアについては4割が満足という結果になりました。
- ・フェアについての満足度はあまり高い結果が得られなかったのですが、また来店したいという回答が約8割あり、大ツキメニューの認知度の向上とか商店街の来店意向の向上等には寄与しているということでまとめています。
- ・『③経済効果』については、フェア開催中の商店街各店舗の売上や来客数の変化について調査しました。
- ・その結果41%、47%という、半数弱ですが、売上や来客数が増加しているという結果が得られ、商店街の賑わいの創出に寄与したということでまとめています。
- ・『④課題の検証』については、アンケート結果から認知度が低い、大ツキメニュー展開の検討の必要性があるという結果が出ております。
- ・『効果・検証』として、この事業実施によって商店街に来訪したいという意向は向上していること、今後は大ツキメニューのような商店街の各店舗の魅力アップにつながるようなものを期間限定ではなく継続的に実施し、実施においては来街者への周知を十分に行っていくということにより、大ツキメニューの知名度の向上を図っていくことが必要ではないかということでまとめております。

(A-2 おおつきコンシェルジュ事業)

- ・「おおつきコンシェルジュ事業」ですが、これは商店街や交通事業者等がコンシェルジュになって来訪者への情報提供等を行っていくということで実施した事業です。
- ・『①集客力』について、コンシェルジュによる利便性の向上、コンシェルジュ実施により利便性が向上するかということでは、4割が向上するという回答がありましたが、この結果だけを見ると期待度があまり高くない結果となっています。
- ・『②満足度』については、来街者の8割が満足と回答していますが、回答数が少なく、コンシェルジュや商店街の満足度はあまり高くなかった、事業の認知度が低かったという結果になっています。
- ・ただ、商店街の継続的实施意向は高い結果になりました。
- ・『④課題の検証』については、事業の目的とか具体的な内容はあまり浸透していないのではないかと、サービスを提供する側の事業の参加意識が低いのではないかとという結果が得られ、課題としてまとめています。
- ・『効果・検証』については、サービスを受ける側、提供する側、共にサービスの内容が浸透しておらず、実際にPRもあまり行ってなかったということもあり、事業目的の達成というのは不十分であったのではないかとということでまとめています。
- ・ただし、継続的实施意向は高く、街として情報提供等を行っていくことは必要な機能であると考えられるので、実施にあたっては利用者への十分な周知を行うとともにサービスを提供する側もどのような目的で事業を実施していくのか、皆できちんと理解して実施できるよう、勉強会等を定期的実施する等、サービス提供側の意識啓発を行うことが必要だと考えられます。
- ・また、事業の目的を達成するための事業手法について再度検討していく必要があるのではないかとということでまとめています。

(B-1 おもてなしストリート事業)

- ・B1の「おもてなしストリート事業」として、代表的なサービス、おもてなしサービスとおもてなしベンチの設置について、計測、評価しております。
- ・『①集客力』、利便性の向上ですが、おもてなしサービス実施やおもてなしベンチ設置によって、約8割が商店街の利便性が向上すると回答しています。
- ・これらにより、事業実施により利便性が向上し、集客力の向上に寄与すると考えられるということとまとめています。
- ・『②満足度』については、約6割が満足しており、満足度は高く継続的に実施していきたいという希望がありました。
- ・『④課題の検証』については、継続的に実施やサービス提供側の意識改革の必要性があげられています。
- ・また、おもてなしベンチの維持管理として、清掃等の管理については地域の協力体制の必要性があるという課題が出ています。
- ・『効果・検証』について、おもてなしサービスについては利用者への浸透がまだ十分ではないということ、また、サービス提供側の意識の向上が不可欠なメニューであるため、今回の社会実験という短期間で目的を達成するというのは困難であったのではないかとということとまとめて

います。

- また、「おおつきコンシェルジュ事業」と同じく、今後はサービス提供側の意識改革を行いながら日常的なサービスとして定着させて商店街の集客を図っていき、さらに商店街の集客を図るとともに、全体のイメージアップを図っていく。今回は商店街の全ての店舗でのサービス実施はされていないと思うので、今後は商店街において、サービスの提供の範囲を広げていき、商店街だけではなく大月の街全体として、おもてなしサービスのようなものを拡大していく、そのような可能性についても検討していくことが必要ではないかということでまとめています。
- おもてなしベンチについては、今後維持管理をどうしたらいいかとか、今は事業者側で設置箇所を決めて設置していますが、利用者の方から設置箇所についての要望や意見等も出るかと思えますので、そのような検討が必要かと思えます。
- あとは、防犯上の観点ということで、若い人たちの溜まり場になって近所迷惑になってしまうとか、現時点ではそのようなことは出ていないと思えますが、今後、そのような観点での検討も必要なのではないかということでまとめています。

(B-2 街なか魅力発見事業)

- B2 「街なか魅力発見事業」については、大月散策ラッキーマップとビュースポットへの案内看板設置という2つの大きな事業について評価しています。
- 『①集客力』は魅力度の向上ということで、ビュースポットへ案内看板を設置することによって魅力度が向上するか、というアンケートを取りまして、5割が向上すると回答しており、魅力度の向上につながると考えられます。
- 『②満足度』、商店街の満足度については高い結果となり、継続的な実施意向は高かったのですが、来街者の満足度はあまり高い結果が得られなかったという結果になっております。
- 『④課題の検証』については、ラッキーマップの入手方法がわからないといった、来街者に入手方法が認知されていない結果となっており、今後は配布方法について検討していくことが必要ではないかと考えられます。
- 『効果・検証』について、ラッキーマップの配布やビュースポットへの案内看板設置により、街の魅力度は向上すると考えられます。
- ラッキーマップについては、誰もが容易に入手できないことに対する不満があるという結果になり、今後は配布方法の検討が必要であり、また、配布方法の検討の際にはラッキーマップの作成費用等も関連してくるので、行政との役割分担等の検討が必要ではないかということでまとめております。

(B-3 “大ツキ” 軽トラック市事業)

- 「大ツキ軽トラック市事業」について、10月22日に開催しており、『①集客力』については、あいにくのお天気だったのですが、約7,000人が来場したという結果になりました。
- 歩行者数については約4時間で21,500人、最大時間当たり11,000人という結果になり、軽トラック市開催により、来訪者が増加し、回遊性の向上や賑わいの創出に寄与したという結果になりました。
- 『②満足度』は来街者と出店者、商店街と3者に対してアンケートを行い、すべて満足度が高い

という結果になり、継続的に実施していった欲しい、また実施したいという結果になりました。

- ・『③経済効果』は出店店舗の売上、購入客数になりますが、軽トラック市店においては売上高全体で約 286 万円、購入客数は約 4600 人という結果になりました。
- ・平均すると 1 店舗あたり約 4 万円で、最大売上高というものは約 18 万円、購入客数については平均 64 人、最大購入客数は約 200 人という結果になっております。
- ・商店街の既存店については、売上高は約 89 万円、購入客数は約 790 人。
- ・平均すると、1 店舗当たり平均約 6 万円、最大売上高は約 40 万円。購入客数は 1 店舗あたり 52 人、最大購入客数は 200 人という結果になりました。
- ・事業による一定の売上高というものは得ることが出来ましたが、売れた店舗とそうでない店舗という二極化が顕著にみられたという結果になっております。
- ・先程ご説明した軽トラック市の来訪者数、歩行者通行量のところで資料にミスがありまして、最大時間あたりの歩行者通行量で約 1100 人になっておりますが、こちらのほうは 11,000 人の誤りですので、訂正をお願いします。
- ・『④課題の検証』について、事業の採算性や継続性を考慮し、大掛かりな事業であるため、実施体制の構築についての検討が必要であるという結果が出ております。
- ・地域の連携・協力体制については、多くのスタッフが必要となりましたが、良好な連携・協力体制であったという結果が出ております。
- ・『効果・検証』について、事業実施により賑わいの創出に寄与していること、また、来街者の次回来訪意向も高いということ、出店者や商店街、皆が継続的にやっていきたいという結果になっております。
- ・一方、事業実施にあたっては、費用やスタッフ、交通規制による周辺への影響等を考慮し、今後、経済効果や賑わい創出への効果がどのぐらいあるのかという部分をしっかり検証し、継続的に実施可能な体制が構築することができるかどうか検討していく必要があるのではないかとということでまとめています。
- ・以上が「資料 2」の説明になります。

【委員長】

- ・ありがとうございました。
- ・それでは「資料 3」について引き続きご説明の方、よろしくをお願いします。

【事務局】

(「資料 3：継続的な実施体制の構築について」説明)

- ・それでは「資料 3」の継続的な実施体制の構築について、ご説明をさせていただきます。
- ・今回の「資料 3」には関係ございませんが、今回実施した 5 事業について、正面の壁に色々な事業の写真や関連するポスター等、掲示してありますので、委員会終了後に見て頂ければと思います。
- ・それでは、継続的な実施体制の構築について事務局の市の方の考え方をまとめさせていただきます。
- ・市の考え方と致しましては、先程説明しました「資料 1」の通り、次回のまちづくり推進検討

委員におきまして、具体的な賑わいづくりの継続にあたっての実施体制の構築に向け、規約等についてご提案してご審議を頂く予定と考えております。

- ・この内容と致しましては、今後の賑わいづくり創出の継続については、この委員会の設立時から具体的戦略の立案、また作業部会の立ち上げ、社会実験の計画・検討、実施と進めてまいりまして、その成果をもとに具体的戦略による計画通り社会実験の事業の検証を行い、次のステージに進んでいくことが必要であるというふうに考えているところであります。
- ・このため、「資料3」においての案2の全体協議会による実施案として、この案2の長所を取り入れた方法で具体的にご提案をさせていただきたいと考えております。
- ・全体協議会の下と言いますか横と言いますか、今実際に動いております BMC プロジェクトを基軸として形成するような方向性で形作っていくことが一番望ましいのではないかとこのように現在考えているところであります。
- ・これらの方法をメリット・デメリット色々書いてあります。
- ・メリットが多くなるような方法を考えて、ご提案をさせていただくと考えております。
- ・今後、市におきましては街の活性化を担当する然るべき部署におきまして、この持続的な賑わいづくりの形成に向けたサポートを積極的に行わせていただくこととなると考えております。
- ・この大月駅周辺整備事業が、結果として地域の賑わいづくりの原点となりますように、また今後ご審議をよろしくお願ひしたいというふうに考えております。
- ・以上でございます。

【委員長】

- ・ありがとうございました。
- ・最後は次回の第2回推進委員会での議論にも関わる話でございまして、今日の段階で来年度以降の実施体制をどのように組むかということ、最後にご議論していただければと思います。
- ・それでは順番にまず「資料1」の方から、これは全体的なこれまでの委員会としての開催経緯と全体の中で今年度はどういう位置付けになっているかということ、最後に「資料3」との関係で、平成24年度以降についての体制づくりということ、全体のフレームの話を中心に説明していただきました。
- ・これはそんなに問題ないかと思えます。
- ・「資料1」の平成23年度、今日、第1回目の1月13日において、審議していただいております結果報告と、次年度以降の実施メニューということ、それから「資料3」の継続的な実施体制の構築についてという議論を第1回目に行い、第2回目については、2月14日に予定しておりますが、平成24年度に設置予定のまちづくり協議会、これは仮称ですが、その実施体制案や規約をご提案頂き、これを決定するというところであります。
- ・「資料1」について、ご質問等ありますでしょうか。
- ・これは、このような形で進めたいという提案をさせていただいたということで、まとめていただければと思います。
- ・よろしいでしょうか。
- ・それでは、一番今日の中では、おそらく来年度との関わり合いで議論しないといけない点だとは思いますが、昨年度の夏、秋において5つの社会実験を実際に実施してまいりまして、来

年度以降の継続的な実施の検討を踏まえて、今回冒頭にありました通り、社会実験の実施以降において定量的な効果の検証と、それから定性的な課題の検証を行う必要があるということで、資料2の流れ、フローが示されてありますが、それに基づいてA1、A2、B1、B2、B3、5つの実施した事業についての評価あるいは効果の検証ということをご説明していただきました。

- この委員の皆さんの中には、それぞれの事業について、非常に積極的に関わられた方、参画された方、あるいは関係の団体として、組織として関わられた方がいらっしゃると思いますので、ここで示した評価あるいは効果・検証について忌憚のないご意見を是非いただければと思っております。
- それぞれの事業について、色々な表現の仕方で結果を報告しておりますけれども、それぞれ1つずつでも結構ですし、ご質問やご意見をいただければと思います。
- いかがでしょうか。

【委員】

- 昨年2月にまちづくり推進検討委員会で決定を致しました実施要綱をもとに、平成23年度事業を実施してまいりましたが、4月18日に賑わいづくりの社会実験の実行委員会を設立いたしましたして、それを中心として5つの事業を実施してきました。
- 賑わいづくりの社会実験の実行委員会は36名で組織致しまして、それを5事業に分け、5事業にはまた各部会担当者がおりますので、総勢110人か120人ぐらいの規模で事業を実施してまいりました。
- 各事業にお手伝いいただいた方も含めると、300人から400人ぐらいの体制であり、市民の方々、あるいは行政の方々、これに関係機関の方々を含めて大勢の方々のご協力を頂いて実施致しました。
- その内容も申し上げておりますように、おもてなしマインドとラッキーシティ、大きなツキを呼ぶ大月、この2つを基本コンセプトとして実施をしてまいりました。
- 各事業とも本当に多くの皆様のご協力を頂く中で、先程のコンサルタントからの報告にありましたように、賑わいづくりを起こすための仕掛け、社会実験実施によって人を集める仕掛け、地域住民、観光客、来訪者、商店街、行政等が満足できる仕掛け、中心市街地が元気になる仕掛け、この3つは、全ての事業においてかなり大方の満足をしていただいたのではないかと思います。
- もちろん、事業の内容によってはもう少し検討が必要なものもあったのかなと思いますが、大方の満足を得たのかなと思います。
- そして、申し遅れましたが、この中の1つの事業、「街なか魅力発見事業」のみ現在進行中でありまして、来月中ぐらいには完成する方向で進めております。
- 街なかの魅力発見ということで散策マップは作って、10月末に完成をしておりますが、ビュースポットの看板設置、それと駅前に設置します街なかの魅力を発見する看板、この2つと、それらへの誘導の道標的なものの設置については、現在関係機関との調整や業者との作成の検討を進めているところであります。
- そして、各事業について説明させていただきますと、夕やけ市については、非常に大勢の方々

が訪れ、多くのイベントも実施ができ、市民団体等の積極的な参加も頂きました。また、各飲食店の大ツキメニュー、17のメニューが開発されまして、これを機会に各飲食店の積極的な開発により来客がかなり増えたということです。

- ・「おおつきコンシェルジュ事業」において、情報の提供というか、案内所という形で大勢の方々へ情報を提供する、あるいは案内をするということでは、商店街、あるいは近隣の方々、地域も含めてある程度、啓発活動ができたのではないかと考えております。
- ・また、「おもてなしストリート事業」につきましては、おもてなしベンチですが、大月の月の語源でありますケヤキを半分に切ったものをベンチと致しまして、そのベンチは小中学生の描いた絵をタイルに描いたものを焼き付けて、埋め込んだということで、非常に評判も良く、お年寄りが本当に嬉しいと、涙を流さんばかりに言っていただいたということを経験的に聞いておりますし、今まで大月駅の構内のベンチがありますが、それ以外に全くベンチがなかったということで非常に好評を得ているということです。
- ・おもてなし関連では、おもてなしステッカーを各商店に貼って頂き、またお手元にもございますが、大きなツキを呼ぶラッキーシールということで、大月短期大学の学生さんをはじめ若い方々のご意見を取り入れてシールを作成したところ、小学生から大人の方まで非常に好評で、それが欲しいという方が結構おります。
- ・「街なか魅力発見事業」は先程申し上げましたが、マップにつきまして、先程のコンサルタントの報告では、評価が満足4割ということですが、どういう調査方法かよくわかりませんが、我々の感覚では非常に多くの方が満足、9割以上の方が満足しているというふうに我々は思っておりますし、それを手にとった方が、凄いな、素晴らしいなということで言っていただいております。
- ・このマップについては、20回以上の編集会議を行って、20人近くのメンバーが各専門分野で情報収集する中で作成を致しました。
- ・「軽トラ市事業」であります、これも66店の軽トラ、それと17店舗の出店、総勢80前後の出店者がありました。
- ・国道20号も警察の皆様方、あるいは近隣の方々、本当にご迷惑をおかけしたと思っておりますが、大月駅前の信号から大月市役所前の350mくらいを通行止めにしたわけですが、出店者の皆様方も非常に喜んでいただいた、そして来場者にも喜んでいただいた、そして商店街も。
- ・全ての方々に喜んでいただいたということで、先程の説明にもありましたが、皆が満足する仕掛けという点では、全ての方々から評価を頂いたと思っております。
- ・それと来場者数も7,000人ということで先程報告がありましたが、これはマスコミが何人集まったかということ速報で知りたいということで、概要で7,000人という発表をしましたが、その後の商店街の抽選回数、あるいは試飲した回数とか、いろいろなものを調査していくと10,000人前後の来場者があったのではないかと我々商店街では思っております。
- ・そして、終わった後も来場者の方々から、次はいつやるのと、本当に大勢の方々から頂いております。
- ・今までもイベントを色々やってまいりましたが、このように多くの方々から再度やってほしいという要望があったことは今までなかった。
- ・以上、報告をさせて頂きましたが、今後も皆様に協力を頂きながら、賑わいづくりに向けて推

進していきたいと思います。

【委員長】

- ありがとうございます。
- 特に作業部会Bの方からご提案していただいたB1、B2、B3の事業について、特に深く関わり、事業実施について先頭に立ってやっていただいた方なので、各事業についての実施状況や事業の『集客性』、あるいは『満足度』、『経済効果』、『課題の検証』といった実施結果についてのご自身のお考えや実施状況から見たご意見をいただきました。
- それぞれの事業の中で、今後どのような取り組みをしていかないといけないのかということも、次の論点になってきますので、事務局・コンサルタントから定量的なアンケートの集計結果、評価結果について示されていますので、確認をしておきたいと思います。
- まず、「A1事業」の方ですが、夕やけ市とうみやーもんフェア（大ツキメニュー）を2つに分けて評価がされております。
- 特に委員会として注目すべきことは、アンダーラインを引いている箇所が今後の取り組み等への改善点や考えないといけない事項等、ヒントになる箇所かと思っております。
- そういった点で見ますと、まず夕やけ市に関しましては、『集客力』のところでは歩行者数1.5倍になったという計測結果から見て、夕やけ市開催によって駅前及び商店街の来訪者が増加し、駅前から商店街への回遊性向上及び賑わいの創出に寄与した、といったプラスの集客の中での効果が一括して現れたというふうになっております。
- それから『満足度』に関しましては、来られた方あるいは商店街、商店街については少しサンプル数が12と少ないのでそれほど信頼できるものではないのですが、双方とも満足度は高いということで、特に商店街側からは継続的な実施の希望が出ています、ということになっています。
- それから一方、こういった集客性が高まったことでどのような『経済効果』、『経済効果』といっても色々な捉え方がありますが、ここでは単純に売上等や購入客数がどの程度伸びたかというよう数字で示されております。
- それによりますと事業の売上高は得ることは出来たが、直接的な経済効果にはつながらなかったのではないかとということで、これは売上の規模、額のレベルはそれほど大きくはなかったということの評価となっております。
- 『課題の検証』と致しましては、事業実施においては、継続的な実施と集客の為の方策の検討が課題としてあがっております。
- これは資料には書いていないのですが、例えば集客は1.5倍になったということですが、8月20日と9月17日ではやはり通行量、来場者数も違っており、これは開催時間が8月20日は12時から17時と正午から始めたのに対して、9月17日は14時から始められたということで、この2時間の差が、飲食の販売を行うイベントということですので、来場者数が随分違っている。
- その結果、売上にも影響を及ぼしているということもあり、そのことから開催時間の見直し等が掲げられているのではないかと思います。
- 当然、集客というのはこういった時間帯に開催することにより、解決するかもしれませんが、

売上という部分での直接的な経済効果ということに関しては、更なる工夫が必要だということになるかと思えます。

- ・ 沢山の人が来て頂くのは良いのですが、お金を落としていただきたいということから言いますと、お金を落としていただくための工夫が必要な点かと思えます。
- ・ それから当然、継続的な体制に関わる部分では、地域の連携とか協力体制ということが、今の段階では良好ですが、今後の継続的实施においても考えていかないとならない点であるということが効果・検証となっています。
- ・ 「A1事業」の中のグルメフェアの開催、大ツキメニューの実施については、フェア全体としての満足度はそれほど高くなかったが、大ツキメニューの満足度は高かったということで、大ツキメニューの認知度の向上及び商店街への来訪意向の向上に寄与したということになっております。
- ・ 売上・来客数に関しては、一応増加したということでまとめられていますが、どの程度の増加なのか、あるいは前と比べてどのくらい増加したかということなのかは数字の根拠がわからないのですが、フェア開催後に売上及び来客数の増加、商店街の賑わいに寄与したということになります。
- ・ 『課題の検証』の中では、認知度が低いということでこれをどうするかということが指摘になっています。
- ・ そういう意味では最後のところで、今後は大ツキメニューのような商店街の各店舗の魅力アップにつながる商品、サービス提供を期間限定ではなく継続的な実施が必要であり、実施においては来街者への周知を十分に行い、大ツキメニュー等の知名度の向上を図ることが必要である。
- ・ よって、今後どのような形で展開していくのかについては、少し課題が残っている事業だというふうに理解できるかと思えます。
- ・ 「A1事業」はこのような評価になっております。
- ・ (事務局に対して) 先程、開催時間の問題については私の理解でよろしかったでしょうか。
- ・ やはり8月と9月の2回の実施結果を比較して、開催時間の見直しという話が出てきたのか、そのように理解してよろしいか。

【事務局】

- ・ 来場者の数が2回目は激減している訳ですが、第1回目は新聞広告が入っていたが第2回目は新聞広告が入っていなかったという点、また、第2回目は非常に雨が強く降ったという状況がありました。
- ・ そのような関係で、かなり大きな差が現れたと考えております。

【委員長】

- ・ そうすると、開催時間の見直しというのは、何から出てきた課題なのか。

【コンサルタント】

- ・ 今室長から説明があったことも1つの要因ですが、第1回はお昼時間中に開催されており、また、ファーストフード的な食べ物等も多く出店されていたということもあり、売上あるいは来

場者数に寄与したのではないかと考えております。そのことから、14時スタートではお昼時間後、昼食後に来場されており、飲食関係の売上が落ちてしまったのではないかと考えております。

【委員長】

- ・ありがとうございました。
- ・それからグルメフェアの方ですが、実施日について期間限定ではなくてという文面があるのでお聞きするが、実施日が8月26日から10月30日の毎週金・土曜日に実施されていたということで、その曜日設定がどうかという話とか、同じ金曜日でも非常に差があったのか、あるいは金曜日と土曜日で差があったのか、そういった期間限定ではなく継続的な実施が必要だということをもとめているので、どのような改善を行ったら良いのかということで役に立つデータみたいなのはあるのでしょうか。
- ・実施期間中での各曜日の差が見られるか見られないかということをお聞きしたい。

【事務局】

- ・当初は毎週金曜日・土曜日に大ツキメニューを食べられるという計画をされていましたが、実際には、店舗によって週末だけではなくて毎日大ツキメニューを食べられるようにした店舗があったり、店舗によって期間中にも色々改善・工夫がされているので、金曜日と土曜日の売上や来客数の差の把握は出来ていません。

【委員長】

- ・わかりました。
- ・そうしますと、ここでいうサービスの提供を期間限定ではなく、というのは、週末メニュー的なものでなくて、その飲食店に行けばいつでもそのメニューが出されているというのも1つのやり方だと、そういう意味でまとめられているのですね。

【事務局】

- ・そうです。
- ・例えば、大きなイベント実施する場合は、そのための費用がかかってきてしまいますが、大ツキメニューについては、メニューとして開発された後は普段のメニューの中に入れ、継続的に提供する方が、実際に売上とか利用客数も増加しているので、効果があるのではと考えております。

【委員長】

- ・フェア開催と週末メニューとしての大ツキメニューとの定義というのをリンクさせていたが、ここでの内容は、大ツキメニューをフェアのときだけに限定せず、継続的に実施したら良いかということですね。
- ・わかりました。

【委員】

- ・グルメフェアと大ツキメニュー、これは全く別に考えて理解していただいた方が良くと思います。
- ・この3ヶ月間の事業においては、基本的にはほとんどの店が大ツキメニューを毎日食べられることになっていて、フェアの金・土曜日については、のぼりを掲げて、飲み物サービス等のサービスを行い、特に力を入れてやっていたということで、大ツキメニューはいつでも食べられたということで理解していただければと思います。

【委員長】

- ・わかりました。
- ・この資料においては、今のような誤解を招くような書き方になっていると考えられますので、効果・検証の文章内において、大ツキメニューについて今後どのような形で提供することを考えるべきかという提案について加筆して頂きたいと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・次に「おおつきコンシェルジュ事業」ですが、これは集客性とか経済効果とか、そのようなこととは少し性質が違う事業ですので、「おもてなしストリート事業」、「街なか魅力発見事業」も同じく経済効果の部分は評価をしていないということになっています。
- ・そういう意味で、今後このような「おおつきコンシェルジュ事業」、「おもてなしストリート事業」、「街なか魅力発見事業」の少し他の事業とは性質の違う事業を今後はどういう形で進めていくかという点で評価していくのかということになるかと思います。
- ・『集客力』、利便性の向上に対しては、約4割が利便性が向上すると答えたという結果になっているが、利便性の向上への期待はあまり高くないとまとめられている。
- ・4割は半分を割っているからということなのか、あるいはこの21というサンプルが少ないということからなのか、利便性の向上に関して期待度はあまり高くなかったという結果になっている理由について、後で事務局の方からお答えいただければと思います。
- ・それから『満足度』に関しては、認知度が低く、満足度もあまり高くなかった。
- ・ただ、商店街の方からは継続的实施意向が高いということになっています。
- ・そのようなことから、最後のまとめとして、サービスを受ける側、提供する側共にサービス内容が浸透しておらず、事業目的の達成は不十分となっている。
- ・ただ、継続的实施意向が高く、街としても必要な機能であるから、実施に当たっては事業者への十分な周知を行うと共に、コンシェルジュの勉強会を定期的を開催する等、サービス提供側の意識啓発を行い、事業の目的をしっかりと達成するように再度検討する必要がある。
- ・この事業については、サービスを提供する側が段々学習しながら、サービスレベルをグレードアップしていくというのが事業目的だったというふうに理解しているので、本来の事業目的に沿った形で更に実施を継続するべきだという評価になっています。
- ・また、B1「おもてなしストリート事業」、B2「街なか魅力発見事業」について、先程小俣さんから事業実施側からの補足的な実施状況の説明をしていただきました。
- ・ここでは、評価の中のアンダーラインのところを中心に確認をしたいと思います。
- ・B1の「おもてなしストリート事業」の方は、集客力、利便性に関しては、利用者のニーズも

あり、集客性の向上には寄与した。

- ・また、商店街の満足度も高く、継続的な実施を希望している。
- ・ただ、課題の検討の中には、おもてなしのベンチの管理や清掃等において、店舗や住民の協力が必要だとか、もっと広く市民へのPRが必要だとか、さらには商店街個々の意識改革が必要だということで、商店街の人の中には満足度や継続意向が高い人もいらっしゃるが、さらにまだ意識改革も必要だということ。
- ・このようなことから、今後はサービスを提供する側の意識改革、それから街全体のイメージアップのために、そのサービス提供の範囲を拡大する可能性について検討が必要だという評価になっております。
- ・この「おもてなしストリート事業」の今後の展開の中では、サービスの範囲や協力体制、実施体制に関わる部分が検討課題だろうと思われまます。
- ・「街なか魅力発見事業」については、マップあるいは看板の設置を中心に行っているということで、それ自身は魅力向上の中で一定の効果は得られたのではないかと。
- ・商店街の『満足度』、継続意向は高いとはなっていますが、利用者、来街者の満足度は得られてはいないとなっております。
- ・そのような意味では、例えば課題の中にあるように、そのマップの入手方法や配布方法がまだ来街者にとっては十分な状況ではないということから、そのような検討が必要だろうというのが最後の取りまとめとなっております。
- ・これら3つの事業は、売上とか、沢山集客させるための賑わいづくりということではなく、質の高い快適性とかわかりやすさとか、そのようなことを通じて貢献しようという事業です。
- ・何れは継続的にやらないといけない事業かと思うが、その効果や事業目的の達成のための検討は、更に新しい実施体制の中で検討していく、そういう事業ではないかと取りまとめられていますが、これはこれで私自身は良いかと思っておりますが、いかがでしょうか。
- ・よろしいですか。
- ・最後のB3の「軽トラック市事業」については、これ小俣さんの補足説明にありましたように、実際には1万人くらい来場したということで、非常に大掛かりな、しかも動員力のあった事業が展開されたということになります。
- ・『集客力』については、軽トラック市開催により駅前、商店街への来訪者が増加し、駅前から商店街への回遊性向上及び賑わいの創出に寄与した。
- ・それから来街者、出店者、商店街の『満足度』が高く、継続的实施への要望も高いというふうになっております。
- ・ただ、『経済効果』に関しましては、事業による一定の売上、購入客数は得ることは出来たが、二極化は顕著に見られる。
- ・要するに売上が非常に良かったのと、大して潤わなかったところの差が大きかったということかと思えます。
- ・『課題の検証』としては、やはり事業全体の採算性、それから継続性を考慮し、実施体制の構築の検討が必要である。
- ・また、非常に大掛かりな事業であり多くのスタッフが必要であったということで、今回は良好な連携・協力体制が得られたということですが、最後にありますように、事業実施にあたって

は、費用面、スタッフ面、交通規制等による周辺への影響等を考慮する大掛かりな事業であるため、経済効果や賑わい創出への効果等踏まえ、継続的に実施可能な体制が構築することが出来るかどうか検討していく必要があるということになります。

- ・まさに、次の「資料3」で出てきている実施体制のところの取り組みや、あるいはその検討の仕方も含めて、この事業は今後どのように検討していくかというのが非常に大きな問題となる事業かと思います。
- ・これまでの実施事業5つについての評価、結果報告についてこのような取りまとめでよろしいでしょうか。
- ・まずは何の問題もなく、色々なトラブルなく終わられたということの評価しなければならないし、今後はこれをどのような取り組みとして継続していくかということに関して、色々な情報が詰まっておりますので、また新しい検討に入ったときに今回の事例をもう一度しっかりトレースしていくということかなと思っております。
- ・冒頭に言いましたけれども、本当にうまく首尾よく、何の問題もなく終わったことをまず関係者各位、あるいはそれに参画した方々へお礼を申し上げないといけないので、それを十分踏まえた形でこういった評価報告をさせていただければと思います。
- ・よろしいでしょうか。

(「資料3：継続的な実施体制の構築について」)

- ・次回との関係が少し気になっている「資料3」についてですが、事務局の方からご説明していただきました通り、今後の継続的な事業の実施体制を検討する枠組み、これをどのような形で行うのかということで、事務局の提案は評価◎がついている右側の案2をご提案されています。
- ・今後は社会実験から色々な実際の本格的な実施事業の検討に進んでいく訳ですので、少し実務的な体制が取れる枠組みが必要になってきます。
- ・今までは、我々が所属していますまちづくり推進検討委員会という委員会形式でやっておりましたが、基本的には事業実施に係るものにつきましては、通常協議会方式でやる形になっており、そのような形で(仮称)街づくり協議会を全体の協議会という形として構成する。
- ・各事業は全体の協議会とどのような関係性で実施していくかということで、案2においては、全体協議会という点線枠の中に部会が入っており、各事業を実施するという形を想定しております。
- ・このような形から、全体協議会と部会との関係性をどのようにするのかということ、その議論は残されているが、全体協議会、部会があり、それから個々の事業がリンクしているということでご理解下さい。
- ・この方法のメリットは、全体の色々な事業を総合的かつ計画的な事業実施が期待できる。
- ・事業効果を検証しながら新しい事業メニューへの展開がしやすいのではないかと。
- ・また、このような形の方がより大掛かりな事業の実施体制も組みやすいのではないかと。
- ・また、中長期的な実施がやりやすいというメリットが考えられます。
- ・これらのメリットから、案2の方を提案する。
- ・これについては、もし案2を一応想定するという事で今日お認めいただければ、第2回の2月14日の時点で、もう少し具体的な案2の形を踏まえた実施体制や協議会の規約案として、

もう少し具体的な中身が理解しやすい形で、今後の実施体制について提案をしたいと思います。

- ・この段階において案2で良いかということについて、ご意見ございましたらお願いしたいと思います。
- ・いかがでしょうか。

【委員】

- ・委員長からありましたように、案2の全体協議会の実施案で私も賛成ですが、先程事務局から説明がありました通り、今年度賑わいづくりを行っていく中で、まちづくり推進検討委員会で設定したものを、社会実験実行委員会という形で組織化し、その中に5事業の部会を設けて実施してきたという経緯があり、この協議会の下に、BMC（Big Moon City）プロジェクトを作り、その下に各部会、実際に事業を実施するものを組織化していけば一番良い形になるのかなということで提案させていただきたいと思います。

【委員長】

- ・そうですね、私の方も案2の中で全体協議会の構成や事業の窓口になる部会の構成がどのようになるのか、今回の資料だけではなかなかイメージしにくいので、キーワードや関係者等、第2回の時に原案としてもう少し詰めた案を出していただいて、皆さんのご意見をお聞きしながら、推進委員会として、来年度以降の組織の方にバトンタッチしていければと思っております。
- ・今日のところはこのような形で、今まで平成23年度を1つの区切りとして、平成24年度からは体制を新たに組み立てながら実施するというだけではお認めいただきまして、それをただ放り投げるだけでは、この推進委員会も無責任になりますので、どういう形が望ましい形態だということまで、我々の責任の中で議論して、それを推進委員会の中の案として出ささせていただくということにしたいと思います。
- ・他よろしいでしょうか。
- ・そういった形で、これまで5年間やってきましたこと、賑わいづくりのために大月駅周辺整備事業から始まっているこの駅前を中心とした賑わいづくりをいかに効果的効率的に推進していくか、これを検討する委員会を今まで主催させていただきましたが、平成24年度からは社会実験の結果もありますので、次の街づくりに向けた実際の事業を具体的に本格的に展開していかないといけない。
- ・また、ハードな整備のほうも、一応平成23年度末である一定の区切りが出てくる時期に来ておりますので、まさに次の事業をしっかりと検討していかないといけないという時期ですので、そのときに相応しい実施体制を持っていきたいというのが提案の趣旨でございます。
- ・大月市が初めてということではなくて、このような形の事業化に向けた協議会形式のやり方というのは、各自治体でも取り組んでいるやり方ですので、そのあたり十分色々と参考にしながら、大月市に合った形として実施体制を提案していただければと思っております。
- ・それについては、第2回の時にまた具体的にご審議していただくということで、今日のところは事務局の案でよろしいでしょうか。

【委員】

- ・「資料3」の継続的な実施体制の構築についてのお話だと思いますが、実施体制とは言っても、メンバーにどのような人が入るかによって、もの凄く変わってくると思うのですが、それはいつぐらいまでに決定して、どのように人選してやっていくのかっていうことが凄く大切だと思うのですが、それはいつぐらいまでに形を大体作ろうかなと考えているのか。

【事務局】

- ・まだ、私共も正式、正確には内容を詰めておりませんし、市の今後の庁内体制もまだ決定しておりません。
- ・そんな中で、私の中でも考えはありますが、今後、街の活性化について担当する部署と考えをまとめたり、今の各種実行委員会の委員の方々のご意見等も伺った中で、なるべく早期に、例えば次回の実行委員会においては、形だけになってしまうかもしれませんが、概ねの組織の形をご提案させていただきたいと考えております。
- ・また今後、実行委員会等にも色々とお知恵を拝借したいと考えております。
- ・よろしいでしょうか。

【委員】

- ・先程の全体協議会の下に BMC プロジェクトの組織を入れるという意図は、絶対的に、具体的に動く人達の考える場所が欲しいということだと思います。
- ・逆説的に捉えると、全体協議会というものに対して、自分達に任せてほしいという部分が、BMC プロジェクトをここに置きたいという意味ではないかと私は捉えたのですが、もしかしてそれは違うのかもしれませんが、全体協議会を興すにあたっては、当事者の方がどれだけいるかによって実際に動く体制に弊害が出るとか出ないとか、そのようなことが凄く関係してくると思う。
- ・夕やけ市において、最初はお昼から17時までで、2回目は14時から17時までに時間を変更したのは、グルメのものを扱うお昼は、お昼時にそこ（夕やけ市）に売りにいけないという部分があって、時間を遅らせているということがある。
- ・そうしないと、本末転倒になるだろう。
- ・お昼にそこ（夕やけ市）に行って営業しても、自分の店が疎かになったらそれは本末転倒、では2時からにしましょうという話も出た訳で、そこ（夕やけ市）の売上は減ったけれども、実際に自分のお店はやっていた。
- ・そこ（自分のお店）に関して売上が減ったかどうかということの検証は、ここには出てこないと思うのです。
- ・実際にやっていく人達がどれだけのことを発言する場所があるのか、全体協議会の中に入ってくるのかということを凄く大切に考えてもらって、そして実際に動く人、実際に利益を得る人を全体協議会の場所に来てもらうということが凄く大切だと思うので、出来れば今から考慮するということに入れていただければと思います。
- ・以上です。

【委員長】

- ・ありがとうございます。
- ・当然、何のための全体協議会なのかということにも関わる部分があると思うので、その構成のあり方を踏まえて、それと十分連動しながら、この案2の形の体制を原案として出していただくということかと思っております。
- ・これまでは、どちらかというと大月市の推進検討委員会、行政がその委員会というのを組織しながら、社会実験をマネージングする際の部会を作ったという経緯がありますが、今後は今までは行政の役割も変わってくる可能性もあります。
- ・事業をベース、軸に考えざるを得ない面も出てきますので、おっしゃったように事業をされる方々の発言の場であるとか、参画の場というものを協議会の中でも考える必要がありますので、これはこれまでの推進委員会の性質とは随分違うものになるかと思えます。
- ・そのようなことを踏まえた上でのまちづくり協議会という提案になっていると思いますので、そのような意味では、まちづくり協議会そのものの位置付けとこの案2の中の構成をしっかりと説明ができるような形で提案させていただくということになると思います。
- ・よろしいでしょうか。
- ・それでは、今日のところの議事を終えたいと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・それでは事務局の方へお返しいたします。

5. その他連絡事項

【事務局】

- ・ありがとうございました。
- ・次第5、その他連絡事項、委員の方々の中から何かありますでしょうか。
- ・事務局の方から次回の推進協議会の開催についてご連絡をさせていただきます。
- ・2月14日、大月市民会館4階の視聴覚室にて午後1時30分から開催を予定しております。
- ・委員の方には後日、開催通知を郵送させていただきますので、次回ご出席の方をよろしく願います。
- ・続きまして、次第6の閉会。閉会の挨拶を平井副委員長からお願いをしたいと思います。

6. 開会

【副委員長】

- ・長時間大変ご苦勞様でございました。
- ・次の第2回は2月14日でございます。
- ・何とかお繰り合わせをよろしくお願い申し上げまして、第1回検討委員会を閉会いたします。
- ・大変ご苦勞様でございました。